

【不祥事根絶に向けた本校の決意】（行動基準）

- ・教育公務員として、法令を遵守し、高い倫理観と使命感をもって、職務を遂行します。
- ・教職員一人一人が主体性をもち、互いに声をかけあい、チーム駅家として、生徒・保護者・地域に信頼される学校・教職員をめざします。

2024 不祥事根絶のための行動計画

福山市立駅家中学校
作成責任者 校長 菅田耕治

区分	本校の課題	行動目標	取り組み内容	点検方法・時期
教職員の 規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○公務員には身分上の義務がある、全体の奉仕者であるという認識が十分ではない。 ○服装や身辺整理、時間管理（時間外勤務45時間以内含む）などについて不十分な教職員がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修方法の工夫を行い、研修効果を能動的に実感できるようにする。 ○平素より声をかけ合う、チームとして動くなど、駅家中学校教職員の一員である意識を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対話やブレストなどを用いた研修を設定し、より主体的に研修に参加できる工夫をする。 ○服装や身辺整理、時間管理などについて、学年主任・管理職から積極的にアプローチする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修後にアンケートを取り、その意見の共有化を図る。 ○連絡プリント等を媒体にし、頻繁にアプローチし、点検する。
学校組織としての不祥事防止体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員一人一人が組織の一員であるという自覚が高まりつつあるが、まだチームとしての動きを意識した行動が薄い。 ○主任・主事など、一部の教職員に仕事が偏り、チームとしての組織づくりが作れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員同士のコミュニケーションをしっかりとり、「誰一人とりのこさない」チーム作りを推進する。 ○若手教職員が主体となった研修を設定し、組織として仕事を進めることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員一人一人がテーマに沿った服務研修を行う。 ○特定の職員に負担がかからないよう、チームとしての仕事の在り方を主任・主事を中心に確立するとともに、分掌表を掲示して職務の自覚を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長期休業中に、教職員主体の服務研修を実施する。 ○企画委員会・学年主任会で情報交換を行い、状況把握、学年を越えたサポート体制をつくる。
相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰・セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知が年度当初のみである、認知度が低い。 ○教職員の中で、相談システム（校内・校外）の理解や活用が十分できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰・セクシュアル・ハラスメント相談窓口」情報をHPに常時掲載し周知を行う。 ○生徒個々の状態を教職員間で共有し、担任だけで解決しようとせず、主任・主事等、管理職との連携を密に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相談窓口について、学校だより等で保護者に周知するとともに、校内全ての教室にポスターを掲示、HP掲載をする。 ○保護者から出された意見等を、学年、管理職、学校全体で共有化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期末に生徒、保護者及び本校教職員を対象にアンケートを実施する。